人権コラム　心、豊かに

◆ 込められた熱い思い

＜人の世に熱あれ、人間に光あれ＞

1922（大正 11）年 3 月 3 日、全国水平社創立大会で読み上げられた『全国水平社創立宣言＝水平社宣言』は、日本で最初の人権宣言とも言われています。

全国水平社は、被差別部落の人々が全国から集まり、厳しい差別からの解放を目指し創立されました。水平社の名を提唱した創立メンバーの阪本清一郎氏は『水平』に込めた思いをこう語っています。

«あらゆる尺度というものは人間が作った。そしてその尺度によっていろいろな差が出てくる。絶対に差ができないものは水平である。平等を表現するのは水平ということば以外にはない»

«人類は平等でなければならない、今の平等は平等ではない。公平であるかどうかということを見るにはいろんな尺度がある。しかし、どんな計器を持ってきてもそれに勝るのが、水の平らかさである、それ以上の尺度はない»

この「水の平らかさ＝平等」を目指し、これまでに様々な運動や取組が行われてきましたが、居住地や生まれた所、民族、性別、年齢等の違いに注目し、人間が作った尺度によって人の価値や優劣を判断するなど、残念ながら今も差別が繰り返されています。

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という差別との闘いが宣言されてから 90 年以上の時が過ぎた 2016（平成 28）年、現在もなお部落差別が存在すると明記された『部落差別の解消の推進に関する法律』が施行されました。言い換えれば「人の世の熱も人間の光も十分ではない」のが現実です。

水平社宣言は、人間を尊敬し大切にすることで差別をなくそうとうたっています。差別する人がいるから、差別を受ける人が生まれる。人を尊敬することから、差別は生まれない。

一人ひとりの他者を尊敬する心から、あらゆる差別を許さない社会へ、そして真の水平の実現を望み、この言葉で結びます。

＜人の世に熱あれ、人間に光あれ＞

「広報ひた」　平成 30 年 2 月 1 日号掲載